

成人看護学実習（6単位 270時間）

実習目的

成人期にある患者を総合的に理解し、患者に応じた看護を実践できる基礎的な知識・技術・態度を養う。

実習構成

実習名	単位数	対象学年	実習施設
成人看護学実習Ⅰ	2単位 90時間	2年次	静岡済生会総合病院
成人看護学実習Ⅱ (急性・回復期)	2単位 90時間	3年次	静岡済生会総合病院
成人看護学実習Ⅲ (慢性・終末期)	2単位 90時間	3年次	静岡済生会総合病院

成人看護学実習Ⅰ（2単位 90時間）

1. 実習目標

1) 実習目標

成人期の特徴を理解し、健康障害のある患者・家族に必要な看護を考えられる能力を養う。

2) 行動目標

(1) 看護問題を診断するのに必要な情報収集をする。

①家族歴・現病歴を述べる。

②患者・家族が健康障害、入院についてどのように受け止めているか述べる。

③入院前の生活環境、生活習慣について述べる。

(2) 成人の成長発達について、年齢による身体的諸機能の変化、心理・精神的、社会的側面について述べる。

(3) 看護問題となる事柄、治療・処置、その他により二次的に不自由になる生活的不自由さ、基本的欲求の未充足について述べる。

(4) アンドラゴジー（成人学習者の特性）を活用し、患者・家族に対する効果的な学習支援を考え、患者が症状をコントロールし、日常生活行動をセルフケアするために必要な援助を実施する。

(5) 患者・家族のQOLの維持向上を目指し、アドヒアランスを障害するものを見極め自立・自律へ向け教育的にサポートする援助を実施する。

(6) 実施した援助に対する評価をし、必要時計画を修正する。

(7) 患者・家族が、それぞれの価値観を持ち、自立・自律した存在であることを認識し、尊重した態度をとる。

(8) 医療チームの一員として、他者と協力して行動する。

(9) 目的意識を持って、主体的に行動する。

2. 実習方法

患者を受持ち、看護過程を展開する。

3. 留意点

- 1) 実習初日に病棟オリエンテーションを受ける。
- 2) 「実習計画表」は事前に1日の実習目標・計画を立案する。(担当教員に相談・報告する。) 当日、計画に沿って実習を行い、評価の欄に目標達成状況を記載する。(病棟で助言を受ける。)
- 3) 学生主体で毎日カンファレンスを行い、学習体験の共有と疑問の解決を図り、学びを深め、広げる。実習5～6日目に中間カンファレンスを実施する。関連図・全体像を基に思考を整理する。実習終了日は、実習での体験とカンファレンステーマを関連づけて終了カンファレンスを行う。
- 4) 実習期間中に、1日を限度としてまとめの時間を設ける。
- 5) 実習終了後に、実習での学びをレポートにまとめる。

成人看護学実習Ⅱ (2単位 90時間)

1. 実習目標

1) 実習目標

成人期の患者・家族を総合的に理解し、急性・回復期にある患者の看護を実践できる基礎的能力を養う。

2) 行動目標

【手術室】

- (1) 患者が手術を受ける環境と看護の特徴について述べる。
- (2) 手術を受ける患者の心理状態と看護師の関わりについて述べる。

【病棟】

- (1) 患者・家族の手術に伴う不安の原因と影響をアセスメントし、不安軽減のための援助を実施する。
- (2) 手術を受ける患者の身体状況を把握し、手術に向けた準備を実施する。
- (3) 手術・麻酔による生体侵襲についてアセスメントし、異常の早期発見、合併症の予防のための援助を実施する。
- (4) 手術・処置による身体的苦痛・心理的苦痛の緩和に対する援助を実施する。
- (5) 手術後の機能・形態的变化が日常生活に及ぼす影響を理解し、回復に向けての援助、退院後の生活で生じる問題の予防・解決のための援助を実施する。
- (6) チームの一員として適切な時期に連絡・報告・相談を正確に実施する。

【救命救急センター病棟 (ICU)】

- (1) 集中治療を受けている患者に行われる治療・看護の特徴について述べる。
- (2) 急性期の患者の生体反応を捉え、系統的な観察を指導に基づいて実施する。
- (3) 集中治療を受けている患者・家族の心理状態と精神的援助の必要性を述べる。

2. 実習方法

- 1) 手術室・病棟・ICUで実習を行う。
- 2) 急性・回復期にある患者を受持ち、一連の看護過程を展開し個別性を考慮した看護を行う。

3. 留意点

- 1) 事前に担当教員よりオリエンテーションを受ける。
- 2) 各実習初日に病棟オリエンテーションを受ける。
- 3) 学生主体で毎日カンファレンスを行い、学習体験の共有と疑問の解決を図り学びを深め広げる。実習5日目までに中間カンファレンスを実施する。関連図・全体像を基に思考を整理する。実習終了日は、実習での体験とカンファレンステーマを関連づけて終了カンファレンスを行う。
- 4) 実習期間中に、1日を限度としてまとめの学習時間を設ける。
- 5) 実習終了後に、実習での学びをレポートにまとめる。

成人看護学実習Ⅲ（2単位 90時間）

1. 実習目標

1) 実習目標

成人期の患者・家族を総合的に理解し、慢性・終末期にある患者の看護を実践できる基礎的能力を養う。

2) 行動目標

【慢性期】

- (1) 慢性的経過をたどる患者の病態と治療について関連づけて述べる。
- (2) 慢性的経過をたどる患者に治療が及ぼす影響を考え統合し述べる。
- (3) 患者・家族が健康障害を受容していく過程について述べる。
- (4) 必要な治療計画を生活の中に取り入れられるような支援を実施する。
- (5) 必要な治療を継続できるようなソーシャルサポートについて述べる。
- (6) 急性増悪の予防に向けて必要な継続的な観察をする。
- (7) 慢性的な健康障害を有している患者のQOL向上に向けた支援を実施する。

【終末期】

- (1) 終末期にある患者の全人的苦痛を理解し、緩和方法を考え実施する。
- (2) 死の受容過程を理解し、その人らしく過ごせる支援を考え実施する。
- (3) 看取りをする家族をチームで支援することの重要性を述べる。

【全体】

- (1) チームの一員として適切な時期に連絡・報告・相談を正確に実施する。
- (2) 他の看護医療チームとの連携や継続看護の必要性を述べる。

2. 実習方法

- 1) 病棟・透析室で実習を行う。
- 2) 慢性・終末期にある患者を受持ち、一連の看護過程を展開し個別性を考慮した看護を行う。

3. 留意点

- 1) 事前に担当教員よりオリエンテーションを受ける。
- 2) 実習初日に病棟オリエンテーションを受ける。
- 3) 学生主体で毎日カンファレンスを行い、学習体験の共有と疑問の解決を図り、学びを深め、広げる。実習 5～6 日目に中間カンファレンスを実施する。関連図・全体像を基に思考を整理する。実習終了日は、実習での体験とカンファレンステーマを関連づけて終了カンファレンスを行う。
- 4) 実習期間中に、1 日を限度としてまとめの学習時間を設ける。
- 5) 実習終了後に、実習での学びをレポートにまとめる。